

## 8節 耐候性塗料塗り(DP) (改修)

### 7. 8. 1 一般事項

この節は、屋外の鉄鋼面、亜鉛めっき鋼面、コンクリート面及び押出成形セメント板面の耐候性塗料の塗替え及び新規に塗る場合に適用する。

### 7. 8. 2 鉄鋼面の耐候性塗料塗り

- (1) 鉄鋼面の耐候性塗料塗りは、表7. 8. 1による。ただし、上塗り塗料の等級は、特記による。  
 なお、鉄骨等の製作工場で溶接した箇所の錆止め塗料塗りは、7. 4. 3.(2)(ウ)による。

表7. 8. 1 鉄鋼面の耐候性塗料塗り

工 程	塗り工法その他			塗付量 (kg/m <sup>2</sup> )
	規格番号	規格名称	種 類	
錆止め塗料塗り		7. 4. 3(1)による		
1	研磨紙刷り	研磨紙刷りP120~220		—
2	中塗り	JIS K 5659	鋼構造物用耐候性塗料	A種 中塗り塗料 0.14
3	上塗り	JIS K 5659	鋼構造物用耐候性塗料	A種 上塗り塗料 0.10

(注) 1. 錆止め塗料の種別は、塗料その他の欄による。

2. 新規に塗装を行う場合で、工程3まで鉄骨等の製作工場で行う場合は、工程1の研磨紙ずりは省略する。

### 【7. 4. 3 錆止め塗料塗り】

(1) 鉄鋼面の錆止め塗料塗りは、次による。

- (イ) 8節の場合は、種別は特記による。特記がなければ、新規に塗る場合はA種とする。

表7. 4. 4 耐候性塗料塗りの場合の鉄鋼面の錆止め塗料塗り

工 程	種 別			塗り工法その他	
	A種	B種	C種		
下地調整	○	—	—	表7. 2. 2によるRA種。	
	—	○	—	表7. 2. 2によるRB種。	
	—	—	○	表7. 2. 2によるRC種。	
1	錆止め塗料塗り(下塗り1回目)	○	○	○	全面に塗り付ける
2	錆止め塗料塗り(下塗り2回目)	○	○	—	全面に塗り付ける
3	錆止め塗料塗り(下塗り3回目)	○	—	—	全面に塗り付ける

(注) 1. 塗料種別及び塗付け量は、7. 4. 2(1)による。

2. 新規に塗装を行う場合は、下地調整に代えて、素地ごしらえを7. 3. 3により行う。

### 【7. 2. 3 鉄鋼面の下地調整】

鉄鋼面の下地調整は表7. 2. 2により、種別は特記による。特記がなければ、RB種とする。

表7. 2. 2 鉄鋼面の下地調整

工 程	種 別			塗 料 そ の 他	面の処理
	RA種	RB種	RC種		
1	既存塗膜の除去	○	—	—	ディスクサンダー、スクレーパー等により、塗膜、錆等を全面除去する。
		—	○	—	ディスクサンダー、スクレーパー等により、劣化し脆弱な部分、錆等を除去し、活膜は残す。
2	汚れ、付着物除去	○	○	○	素地を傷つけないようにワイヤーブラシ等により、除去する。
3	油類除去	○	○	—	既存塗膜を除去した範囲を溶剤ぶき。
4	研磨紙刷り	○	○	—	研磨紙P120~220
		—	—	○	研磨紙P240~320

【7. 4. 2 塗料種別】

- (1) 鉄鋼面の錆止め塗料の種別は、表7. 4. 1とし、次による。
- (ア) 5節の場合は、A種とする。
- (イ) 8節の場合は、次による。
- (a) 新規に塗る場合は、1回目の錆止め塗料塗りはC種、2・3回目の錆止め塗料塗りはD種とする。
- (b) 塗替えの場合は、次による。
- ① 下地調整を表7. 2. 2によるRA種とする場合は、1回目の錆止め塗料塗りはC種、2・3回目の錆止め塗料塗りはD種とする。
- ② 下地調整を表7. 2. 2によるRB種又はRC種とする場合は、E種とする。
- (ウ) 9節の場合はA種又はB種とし、適用は特記による。特記がなければ、B種とする。

表7. 4. 1 鉄鋼面の錆止め塗料の種別

種別	錆 止 め 塗 料 そ の 他			塗付量 (kg/m <sup>2</sup> )	標準膜厚 (μm)	適用
	規格番号	規 格 名 称	種 類			
A種	JIS K 5674	鉛・クロムフリー錆止めペイント	1種	0.10	30	屋外・屋内
B種	次のいずれかによる。			—	—	屋内
	JASS 18 M-111	水系錆止めペイント	—	0.11	30	
	JIS K 5674	鉛・クロムフリー錆止めペイント	2種	0.11	30	
C種	JIS K 5552	ジンクリッチプライマー	2種	0.14	15	—
D種	JIS K 5551	鋼構造物用錆止めペイント	A種	0.14	30	—
E種	JASS 18 M-109	変性エポキシ樹脂プライマー(変性エポキシ樹脂プライマー及び弱溶剤系変性エポキシ樹脂プライマー)	—	0.14	40	—

- (注) 1.JIS K 5674に基づき、1種は溶剤系、2種は水系である。
- 2.JASS 18 M-109・M-111は、日本建築学会材料規格である。